

[ふるさと団地の元気創造推進事業（大分市）]

課題（状況）

- 郊外住宅団地の少子高齢化が進展、空き家・空き地の増加
- 商店の撤退、バスの減便等生活利便性の低下
- 環境悪化による資産価値低下

目標

- 郊外住宅団地の新たな活性化（郊外住宅団地は子育て施設等の整備された地区で資産活用が可能）
 - 空き家空き地への入居促進対策
 - 住民による団地コミュニティづくり

具体的取組

- ①「ふるさと団地の元気創造推進協議会」設置（札幌市、盛岡市、長岡市、富山市、堺市、久留米市、大分市）－22年6月
- ・モデル団地（富士見ヶ丘団地）の選定とワークショップ開催（12回開催－活性化の方向性を確認）「若い世代を呼び込む」、「高齢者が生活しやすく、活躍する場づくり」－23年
- ・地元プロジェクトチームと市との合同研究
- ・市の取組－子育て世帯への家賃補助、空き家・空き地情報バンク・購入支援事業等
- ・地元の取組み－公園の芝生化・管理、第2公民館開設、自宅開放ギャラリー等
- ③55,340千円（22年度～27年度）
- ⑥ワークショップでの住民と市との合意形成
- ・住民参加による施策の実施/・家賃補助等

・高齢住民の買い物等への自家用車による有償輸送（道路運送法78条）

規制

・お出かけ交通事業実施（タクシー会社に委託した乗合タクシー事業）

解決

大分市プロジェクト

- ①プログラム（行動）
- ②スケジュール
- ③予算
- ④専門人材
- ⑤推進・運用組織
- ⑥成功要件

地域資源 人材

・内閣官房地域活性化統合事務局（関係省庁会議事務局）

【地域人材の参加・活用】

- リーダー・企画マン・芸術家等多様な人材
- 【コミュニティの活性化に寄与する資源】
- ・中央公園－芝はり・管理、あずまや設置
- ・桜の名所づくり・森林探検ウォーキング

支援政策 協力者

产学連携 技術

大分県立看護大学/大分県立芸術緑丘高校

結果（数値）

- 空き家の激減（22年度43戸→5戸に）
- 空き地の減少（22年度102件→81件）
- 宅地造成と住宅建設46件、35件が入居、他に空き地購入・新築も加え入居は55件
- 人口減少は下げ止まり
- 若い世代の入居が進む

地域の変化

- 住民自ら地域の活性化に取組み、行政は支援に当たる市民協働の形ができた
(住民による地域の活性化自体が活動を支える高齢者の生きがいに繋がっている－自助や共助への取組みに転換)

残る課題

- 高齢者の交通対策が課題であり、元気な高齢者によるマイカーでの送迎を検討。規制により実現は困難で、タクシー会社に委託し「おでかけ交通（乗合タクシー）」を実施。利用は少ない状況。自治会負担で一部を市が補助

次の行動

- 「おでかけ交通」の周知や利用を高めるための運行時間等の見直し
- 道路運送法の特例による自治会による交通対策の実施（規制緩和）